

SESSION 2024

**CAPES
CONCOURS EXTERNE**

SECTION : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES

JAPONAIS

**ÉPREUVE ÉCRITE DISCIPLINAIRE APPLIQUÉE
ANALYSE CRITIQUE DE DOCUMENTS ET
CONSTRUCTION DE SÉQUENCE D'ENSEIGNEMENT**

Durée : 6 heures

L'usage de deux dictionnaires unilingues en langue japonaise (un dictionnaire de langue et/ou un dictionnaire de kanji) est autorisé.

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel informatique ou électronique (dictionnaire électronique, ordinateur, téléphone, calculatrice ou autre) est rigoureusement interdit.

Il appartient au candidat de vérifier qu'il a reçu un sujet complet et correspondant à l'épreuve à laquelle il se présente.

Si vous repérez ce qui vous semble être une erreur d'énoncé, vous devez le signaler très lisiblement sur votre copie, en proposer la correction et poursuivre l'épreuve en conséquence. De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, vous devez la (ou les) mentionner explicitement.

NB : Conformément au principe d'anonymat, votre copie ne doit comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé consiste notamment en la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de la signer ou de l'identifier. Le fait de rendre une copie blanche est éliminatoire.

Tournez la page S.V.P.

A

INFORMATION AUX CANDIDATS

Vous trouverez ci-après les codes nécessaires vous permettant de compléter les rubriques figurant en en-tête de votre copie.

Ces codes doivent être reportés sur chacune des copies que vous remettrez.

► **Concours externe du CAPES de l'enseignement public :**

Concours	Section/option	Epreuve	Matière
E B E	0 4 3 0 E	1 0 2	9 3 1 2

L'épreuve est intégralement rédigée en langue française.

Le dossier présenté s'inscrit dans l'axe « Les univers professionnels, le monde du travail »

1. Conception d'une séquence pédagogique

Parmi les documents du corpus, vous en retiendrez quatre, dont obligatoirement les documents n°2 et n°5. Vous en proposerez une analyse critique, puis vous les mettrez en relation en précisant comment ils s'inscrivent dans l'axe « Les univers professionnels, le monde du travail » pour une classe de Seconde générale LVA répondant aux critères suivants.

- classe d'une vingtaine d'élèves dont le niveau est plutôt homogène en production et compréhension orales. En revanche, le niveau est beaucoup plus hétérogène en expression écrite.

- on compte 4 élèves provenant d'une section internationale de japonais dont ils ont suivi les enseignements depuis la 6^{ème} et qui ont été obligés de se réorienter vers une classe de japonais langue étrangère.

- la thématique abordée pour cette séquence a été choisie dans le cadre d'un travail commun avec les professeurs d'anglais.

Les quatre documents sélectionnés serviront à l'élaboration d'une séquence pédagogique prévue pour un nombre de séances raisonnable et adapté au niveau de la classe destinataire.

Les indications ci-dessous ne doivent pas être considérées comme un plan. Si les indications demandées doivent apparaître dans l'élaboration de votre séquence, vous pouvez proposer un autre plan pour votre présentation.

- Sur la base d'une analyse critique et d'une mise en relation des documents que vous sélectionnerez parmi ceux qui vous sont proposés, vous concevrez, présenterez et explicitez la séquence pédagogique que vous envisagez.
- Vous mentionnerez vos objectifs (linguistiques, communicationnels, culturels, éducatifs et de médiation interculturelle) et les moyens et stratégies que vous comptez mettre en œuvre pour les atteindre en fonction de la classe.
- Vous décrierez en particulier les étapes essentielles de votre projet éducatif et la façon dont vous envisagez d'évaluer les acquis des élèves à l'issue de ce parcours pédagogique.

2. Analyse de faits de langue

Vous identifierez les faits de langue soulignés dans le document n°2. Après les avoir décrits et en avoir présenté le fonctionnement et les valeurs en contexte, vous déterminerez comment et selon quels objectifs les intégrer à la séquence. Vous pourrez enrichir votre démonstration d'éléments relevant du même système et présents dans les autres documents que vous aurez sélectionnés.

資料 1



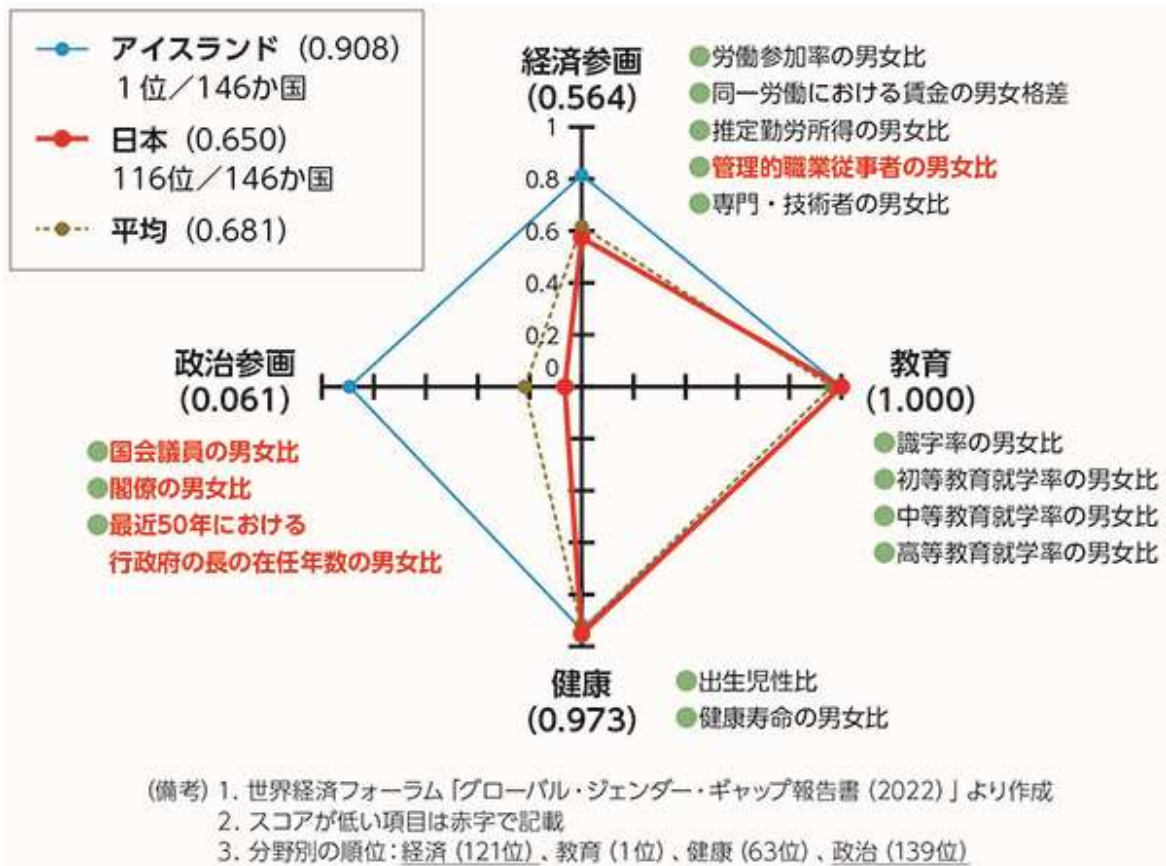
世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数 2022」を公表 内閣府男女共同参画局総務課

世界経済フォーラム（World Economic Forum：WEF）が2022年7月、「The Global Gender Gap Report 2022」を公表し、その中で、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）を発表しました。この指数は、「経済」「教育」「健康」「政治」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。2022年の日本の総合スコアは0.650、順位は146か国中116位（前回は156か国中120位）でした。前回と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。

日本は、「教育」の順位は146か国中1位（前回は92位）、「健康」の順位は146か国中63位（前回は65位）と世界トップクラスの値である一方、「経済」及び「政治」における順位が低くなっており、「経済」の順位は146か国中121位（前回は156か国中117位）、「政治」の順位は146か国中139位（前回は156か国中147位）となっています。

今回順位の低かった経済、政治分野について、2022年6月に政府決定した「女性版骨太の方針2022」においては「女性の経済的自立」、「女性の登用目標達成」等、政府全体として今後重点的に取り組むべき事項を定めています。

経済分野については、「女性の経済的自立」を「新しい資本主義」の中核と位置付け、男女間賃金格差に係る情報開示の義務付け、女性デジタル人材の育成、看護・介護・保育など女性が多い分野の現場で働く方々の収入の引上げ等の取組を進めています。政治分野については、2022年4月に公表した政治分野におけるハラスメント防止研修教材の積極的な活用、各議会における取組の「見える化」等の取組を通じて、男女共同参画の取組を後押ししています。ジェンダー・ギャップ指数には反映されていませんが、2022年7月の参議院選挙において当選者に占める女性の割合は過去最高の28%となりました。



(出典 https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202208/202208_07.html)

資料2

女性だから得意？ 男性の仕事？ 職場に潜むジェンダーバイアスに気付こう！

働く世代の多くの人には、小さな頃に何かと「男の子なんだから」「女の子なんだから」と言われ、怒られたり諭されたりして育ってきたと思います。今、令和という時代に入ると、性別によらない一人一人の価値観を認めていく考え方に変わり始め、企業によっては社員にダイバーシティ教育が行われるまでになりました。しかし、どれほど気をつけている人でも、「自分は全く性別による差別や偏見を持っていない」とは言い切れないのではないのでしょうか。無意識な思い込みや偏見は、アンコンシャスバイアスと呼ばれています。日本労働組合総連合会が約5万人を対象に行った調査によると、実に95.5%の人が、アンケートの中でアンコンシャスバイアスを認識したとされています。今回は、何気ない職場に潜むアンコンシャスバイアスを振り返り、私たちに何ができるのか、キャリアコンサルタントの境野今日子さんに、ご自身の経験や当事者へのヒアリングを通して得たヒントを教えてください。

10 男女雇用機会均等法が制定されて36年。日本では、共働き世帯が専業主婦世帯を上回って
から20数年が経ちます。国連開発計画が行った調査によると、世界では男女の90%近くが女性に
対して何らかの偏見を抱いているという結果が出ました。日本で働いている皆さんの実感として、女性は
差別されることなく働いているでしょうか。

例えば、育児休暇や時短勤務は、女性のための制度だという空気が職場で流れていないでしょうか。
15 出産直前・直後の産休は、法的に取ることが義務付けられていますが、育休は義務付けられていま
せん。したがって、子供が保育園に入るまでの間、母親が仕事に復帰し、父親が育休をとって面倒を見て
もいいはずですが、その選択を取る家庭は少ないと思います。保育園に入れた後も、母親がフルタイム
で働き、父親が時短勤務を取る選択もできるはずですが、そのような家族を私はまだ一人も見たこと
20 がありません。この根底には、「育児は女性がするものだ」というジェンダーバイアスがあります。これは、働
きたい女性を苦しめるだけでなく、育児をしたい男性を苦しめることにもなります。

「気付いていない」ところにも偏見がある。小さな気付きが職場の空気を変えていく

また、女性が客先へ訪問した際に「男性を連れてこい」と言われたり、女性が電話に出ると「男性に
代わって」と言われたりするケースもあります。いまだに、女性はお茶出しなどの雑用をやる人で、自分と
商談や打ち合わせをする相手ではない、と思われてしまうことがあるようです。

25 ここまであからさまな差別はなくても、女性社員のことを「あの子たち」「この子たち」と、「子」を使って
呼ぶ人もいます。私は何度かこの呼び方をしている男性に出くわしたことがあり、その都度「女性社員は
子供ではないですよ」と指摘をしてきました。すると、全員が「気付かなかった」と言います。男性社員に
は「子」と呼ばないのに、女性社員に対してそう呼ぶのは明らかな差別ですが、それはわざとではなく無
意識だったりします。「子」と呼ぶことについては、男女関係なく年齢や立場が下の社員にも使う人がい
30 ますが、いずれにせよ、会社で一緒に働く大人に対して使うべき言葉ではありません。小さなことですが、
もし気付いた時はそっと教えてあげてください。一人一人の気付きが、空気を少しずつ変えていきます。

「女性だから/男性だから得意」という、固定観念に苦しむ人もいること

職場によっては、冷蔵庫の掃除や花瓶の水替えなどを暗黙の了解として、女性にさせているところも
あります。皆が無意識に、「こういうのは女性の方が得意だ」と思っているのではないのでしょうか。しかし、
35 女性にも仕事があり、誰でもできる小さな雑用を押し付けていいわけではありません。こうした雑用を、
得意とする女性もいれば苦手な女性もいて、それは男性と同じです。しかし、「誰かがやってくれるだろう」
の、「誰か」が女性になっているのです。男女問わず気付いた人がやる、という文化を醸成できればベスト
ですが、それがなかなか難しい場合は、これらの小さな雑用をリスト化して、皆で分担を決めるのもい
いかもれません。

40 他にも、取引先に持って行く菓子折りを選ぶのはなぜか女性だったり、社員が持ってきた出張のお土産を配るのも女性だったりする職場もあります。「これくらいの小さなことは、私やっちゃうよ」という女性もいるかもしれませんが、そのちょっとした業務も積み上げれば結構な時間になるはずですし、小さなことだからこそ、変えやすいことでもあります。何より、雑用を男女関係なくやったり、気付いたジェンダーバイアスを指摘し合ったりすることで、「景色を変えていくこと」が非常に大きな意味を持ちます。ジェンダーバイアスがあって当たり前の光景を常に目にしていると、組織はどんどん気付けなくなっていき、拭いても拭いても取れない「あか」のようになっていきます。それくらい、一度出来上がった文化や慣習を変えるのは大変なことです。社会が多様化しているにもかかわらず、会社が時代に逆行してそれを続けていけば、違和感を覚える社員も当然出てきますし、やがて離職にもつながるでしょう。

文 = 境野今日子

2021年1月25日

(出典 <https://mainichi.doda.jp/article/2021/01/25/2054>)

資料3

ジェンダーバイアスとは

男女の役割に固定的な観念を持つことや、
そのために社会的な評価や扱いが差別的になることを指す言葉

ジェンダーバイアスの具体例

01 色や形によるイメージ 02 言葉による固定観念 03 学校の授業や職場での分担

04 能力差があるとする決めつけ 05 複数の性的アイデンティティーへの偏見

(出典 <https://www.asahi.com/sdgs/article/14854933#h272slez40ylw1nj7gvr1s65iiu1hqaiu8>)

資料4 「SDGs#05 ジェンダー平等を実現しよう」をマンガデザイン



(大阪芸術大学 デザイン学科 3年 粟生 菜々珠さん)

(出典 https://note.com/mdl_kira/n/n6dc1de429ba7)

資料5 G7の女性活躍相、男性は日本だけ 格差を象徴？ バランス図る国も



会合を終え、記念撮影に納まる各国の担当相ら。小倉担当相（右から4人目）以外、全員女性だった=2023年6月25日、栃木県日光市、関根慎一撮影

（出典 <https://www.asahi.com/articles/photo/AS20230718001270.html>）